



[お問い合わせはこちら](#)

[リモートでのご相談はこちら](#)



つるかめ喜多工場

つるかめ喜多工場でモクロウの生産復活

当工場の前身は愛媛県大洲市長浜にて大正8年に創業した名門・喜多製蠟所です。2012年に廃業致しましたが、弊社社長野田泰三が「木蠟業界の今後の発展には、良きライバルを決して絶やすべきでない」と考え、損得を越えて会社を買取りモクロウの生産を再開しました。



つるかめ喜多工場の煙突
(長浜のランドマークタワー)

つるかめ喜多工場には、日本最古の稼働している煙管式ボイラーがあり、伝統的なエコエネルギー製法で大切に使い続けており、県内はもちろん東京からもたくさんの方々が好奇心を持って見学に訪れています。

エコボイラーで燃やした後のハゼの実の灰も、九州の女性伝統工芸士とコラボして「花咲かじじいプロジェクト」として、その灰から作られた新たな^{ゆうやく}釉薬が、美しい器の新色を生み出しています。



日本最古のエコ型稼働ボイラー



ハゼ釉薬を用いた美しい波佐見焼(吉川千代子さん作)

